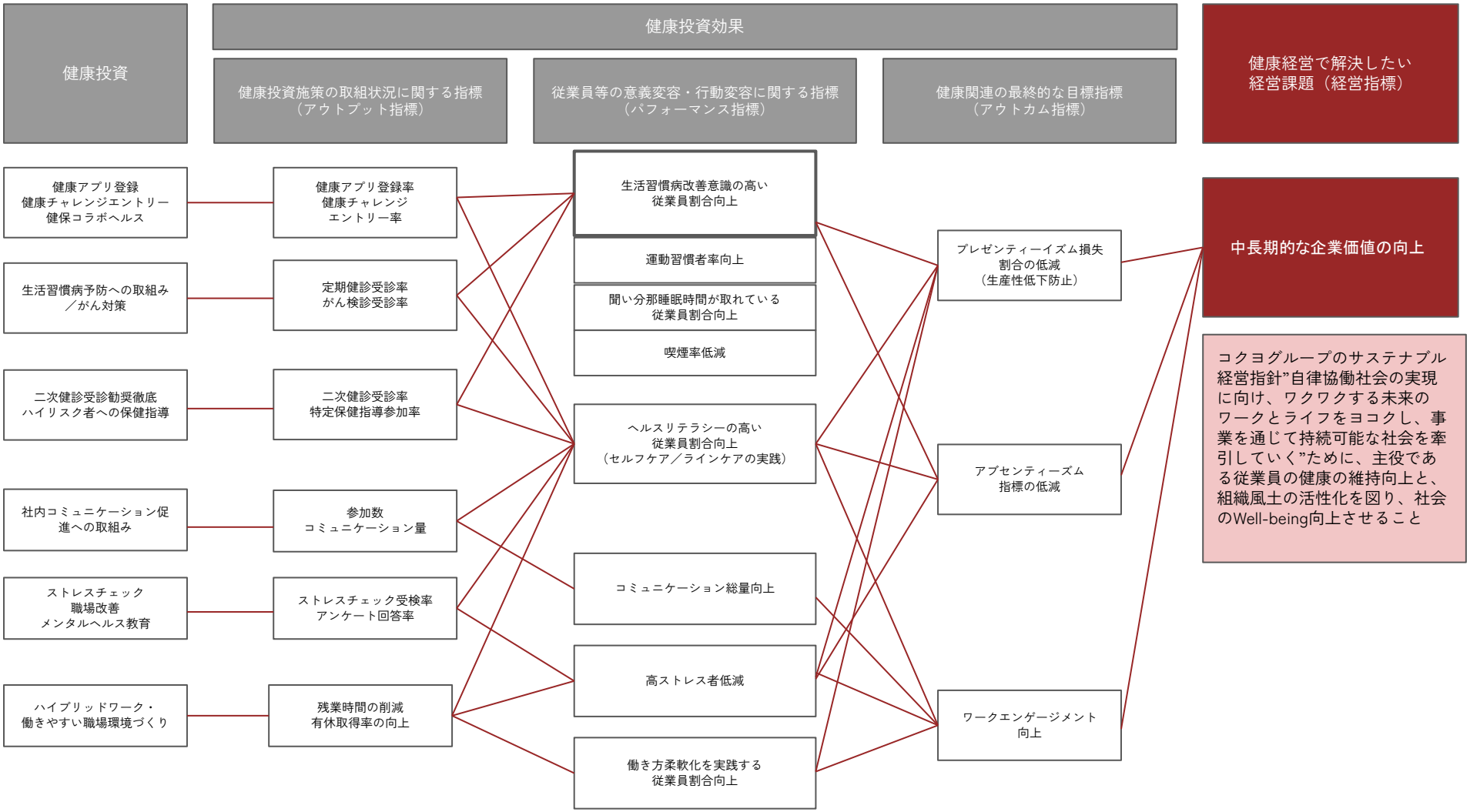

健康投資
健康投資効果
健康投資施策の取組状況に関する指標
（アウトプット指標）
従業員等の意義変容・行動変容に関する指標
（パフォーマンス指標）
健康関連の最終的な目標指標
（アウトカム指標）
健康経営で解決したい
経営課題（経営指標）
健康アプリ登録
健康チャレンジエントリー
健保コラボヘルス
生活習慣病予防への取組み
／がん対策
二次健診受診勧奨徹底
ハイリスク者への保健指導
社内コミュニケーション促
進への取組み
ストレスチェック
職場改善
メンタルヘルス教育
ハイブリッドワーク・
働きやすい職場環境づくり
健康アプリ登録率
健康チャレンジ
エントリー率
定期健診受診率
がん検診受診率
二次健診受診率
特定保健指導参加率
参加数
コミュニケーション量
ストレスチェック受検率
アンケート回答率
残業時間の削減
有休取得率の向上
生活習慣病改善意識の高い
従業員割合向上
運動習慣者率向上
聞い分那睡眠時間が取れている
従業員割合向上
喫煙率低減
ヘルスリテラシーの高い
従業員割合向上
（セルフケア／ラインケアの実践）
コミュニケーション総量向上
高ストレス者低減
働き方柔軟化を実践する
従業員割合向上
プレゼンティーイズム損失
割合の低減
（生産性低下防止）
アブセンティーズム
指標の低減
ワークエンゲージメント
向上
中長期的な企業価値の向上
コクヨグループのサステナブル経営指針”自律協働社会の実現に向け、ワクワクする未来のワークとライフをヨコクし、事業を通じて持続可能な社会を牽引していく”ために、主役である従業員の健康の維持向上と、組織風土の活性化を図り、社会のWell-being向上させること

指標	ワークエンゲージメント	プレゼンティズムの喪失割合	特定保健指導参加率	歩行習慣	健康アプリの登録率	年次有給取得率
課題	現状の自社のワークエンゲージメント指標は、直近でB-（偏差値70)との評価となっている。 全国平均値(2024年:52.7)を上回る状態を維持しつつ更なる向上を図っていく。	世間平均に比してプレゼンティズムによる損失が大きい。 過去データから残業時間とプレゼンティズムに強い相関が確認できており過重労働対策を軸に、まずは世間同等水準を目指す。 ※東大1問方式	高齢化に伴い、健康状態に課題がある社員が増えているが、その中でも特定保健指導未受診の割合が高い。 生活習慣病リスクを低減させるためにも、まずは特定保健指導参加率100%を目指す。	歩行による生活習慣病の予防につながるという結果があるため、将来の生活習慣病者数の減少につなげるべく、まずは歩行習慣を向上させていく。 （日常生活で歩行または同等の身体活動を１日１時間以上実施している）	健康意識の醸成のため、健康保険組合と協同し日々の歩数や食事、睡眠、運動に対する情報提供を健康アプリを通して行っていく。	現状の自社のワークエンゲージメント指標は、直近でB-（偏差値70)との評価となっている。 全国平均値(2024年:52.7)を上回る状態を維持しつつ更なる向上を図っていく。
目標値	B- (偏差値71）	15	100%	70%	70%	100%
前年値（2024年）	B- (偏差値70）	ー	81%	54%	48%	72%
前年値（2025年）	B- (偏差値70）	31.2	85%	57%	54.6%	73%